

STEP 5

リユースカップ回収システムを整備しよう!

イベントから  
ごみを  
減らそう

リユースカップは何度も繰り返し使うことで環境への負荷が少なくなり、経費の削減にもつながります。カップの回収率が85%だとすると6~7回使っているうちに全部なくなってしまう計算になります。利用者は利用・返却しやすく、提供者には貸し出し・回収・洗浄の流れがスムーズに行われるような回収システムを選びましょう。

回収所を設ける場合

日産スタジアムでは飲み終わったリユースカップはコンコースに設けられた回収所へ回収するシステムを導入しています。回収所では飲み残しを専用の容器に捨てたあと、使用済みカップをラックに収納するまでの作業を利用者が自ら行っています。

回収所は観客の導線を研究し、最大で45ヵ所に設置されています。最も混雑する試合終了直後30分は130~140人の競技場ボランティアがサポートしています。

大分スタジアムでは、飲料販売時にデポジット(預かり金上乗せ)100円を売店で加算して販売し、飲み終わったカップを回収所へ持ち込むと、デポジット額を払い戻すという方式をとっています。回収所でデポジット金の払い戻しを行うため、一試合100万円程度のデポジット返金用の100円硬貨が必要となります。試合ごとに「銀行からの出金(両替)、各回収所への分配、残金照合」という作業を行っています。



日産スタジアムでのリユース  
カップ回収の様子



日産スタジアムでのリユース  
カップ回収の様子



大分スタジアムでのリユース  
カップ回収の様子

売店で回収を行う場合

新潟スタジアムでは、回収所を特に設けず、場内の売店が回収を行っています。カップに100円のデポジットをかけているため、カップと100円玉の交換作業も同時に行っています。



新潟スタジアムの売店  
での回収の様子

## STEP 6 カップの洗浄・保管はどうするの？

## カップの洗浄・保管場所を確保しよう！

イベントから  
ごみを  
減らそう

衛生的に洗い、保管することがリユースカップにとっては何よりも大切です。大規模イベントで使用したカップを大量に洗う場合、衛生当局の許可を得た洗浄施設を有する給食サービス会社や洗びん工場などに委託するのが普通です。

独自に洗浄施設を設置する場合は、厚生労働省医療食品局食品安全部が出している「大量調理施設衛生管理マニュアル」([www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/dl/manual.pdf](http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/dl/manual.pdf))が参考になります。それによると、手洗いの方法なども定めた標準作業書に従い、飲める流水で洗い、80℃以上の湯に5分間以上つけて殺菌し、乾燥させ、衛生的に管理すること、となっています。

梅雨時に洗浄済みのリユースカップを常温で1ヶ月保管したところ、黒い水カビが発生したことがあります。適切な温度と湿度管理が大切です。

1. 飲める流水で下洗い

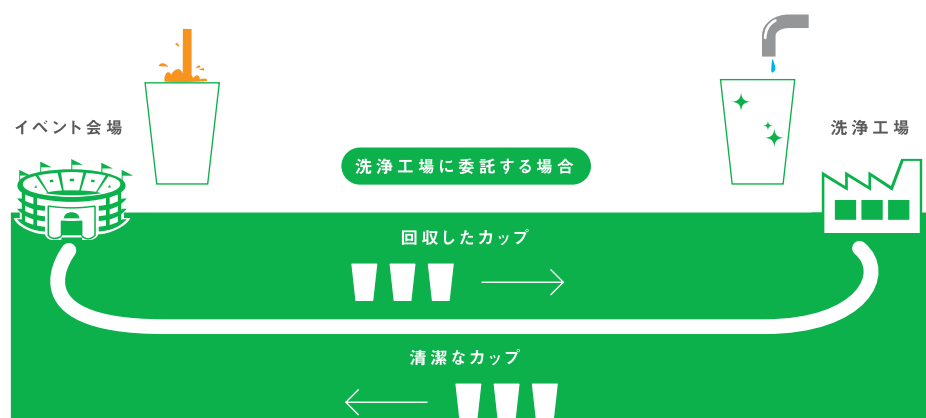
2. 食器自動洗浄機による洗浄

3. 80℃以上の熱湯で5分間以上又はこれと同等の効果を有する方法で殺菌

4. 乾燥庫での乾燥

5. 梱包前の目視チェック

6. 清潔な保管庫で保管



## STEP 7

## 環境の大切さを呼びかけよう！

イベントから  
ごみを  
減らそう

リユースカップシステムへの協力を呼びかけることは、カップ回収率を上げるためにも必要ですが、もっと広く環境保全を呼びかけ、エコイベントを目指すことで、来場者の熱い支持を得ることもつながります。

当日の呼びかけ（サッカー場の場合）

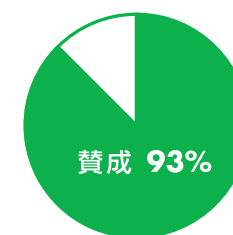
- 小看板の設置 ● 横断幕の設置 ● ちらし
- スタジアム内アナウンス
- オーロラビジョンを使ったPR
- ボランティアの呼びかけ
- 回収所でのアナウンスなど



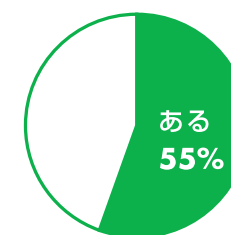
## リユースカップの一番の支持者は、サポーター。

リユースカップ3年間の事業実績から、リユースカップの導入に最も熱心なのはサポーターだということがわかりました。彼らは自分のホームチームの活躍が一番に願っていますが、同時にリユースカップの支持者でもあるのです。

サポーターに行ったアンケートでは、90%前後が「リユースカップの導入に賛成」と答えています。また、大分トリニータのサポーターに「選手やサポーターに環境改善の役割を果たす責任があると思いますか」という質問をしたところ「ある」と答えた人が55%にも達しました。逆に「そのような責任はない」と答えた人は5%にとどまりました。サポーターの大半は、サッカー場が環境配慮の場であることを求めており、サポートするチームが環境を守るために貢献することも期待しています。



リユースカップ導入  
(横浜F・マリノスサポーター・平成16年)



選手やサポーターに  
環境改善の責任はあるか  
(大分トリニータサポーター・平成15年)

## Reduce, Reuse & Recycle

### 4万人のごみゼロプロジェクト（新潟の話）

サポーター・ボランティア、環境NPOが中心になって組織している「4万人のごみゼロプロジェクト」のスタッフが新潟スタジアムでのごみの内容を精査したところ、80%のごみが外からの持ち込みごみであることがわかりました。

そこで、スタジアム内の売店由来のごみとスタジアムの外から持ち込まれたごみの処理責任を明確にしようと、2004年シーズンから「ゴミオモチカエリプロジェクト」を行っています。オーロラビジョンやサポーターのホームページでゴミオモチカエリを呼びかけました。

2005年からは、場内で売られるアルコール飲料にリユースカップが導入され、ビールやドリンクの販売を缶からサーバーに切り替えた売店も登場しました。さらに、ソフトドリンク用に販売していたペットボトルも回収・リサイクルされています。

ゴミオモチカエリプロジェクトやリユースカップの導入、リサイクルルートの確立などで、2003年に一人当たり88.5gあったごみは、2005年には42gへと削減されました。



## Reduce, Reuse & Recycle

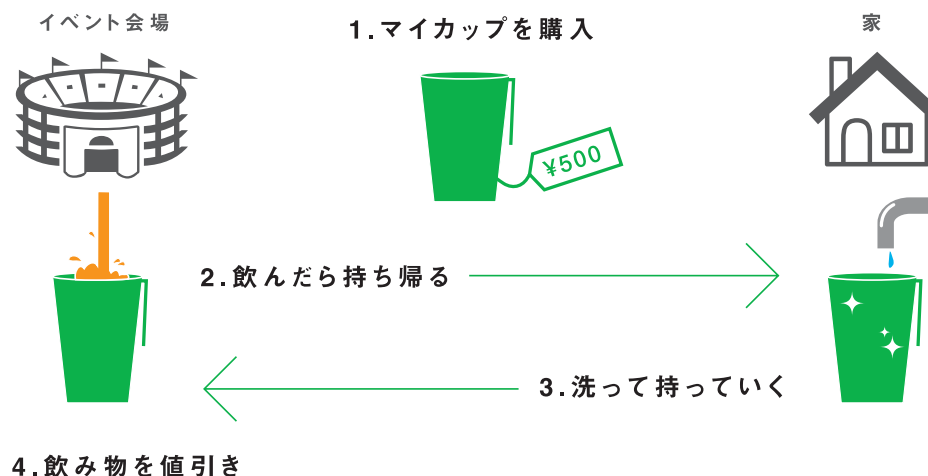
### マイカップ方式（仙台の話）

Jリーグ、ベガルタ仙台のホーム・仙台スタジアム（現ユアテックスタジアム仙台）では2003年7月から、マイカップ方式を導入しました。1個500円のタンブラーを購入し、売店で使用するとビールは100円引き、ジュースは20円引きで飲める仕組みです。

同年だけで、13,300個のタンブラーが購入され、紙コップの排出抑制につながりました。これは地元の環境NGO・（財）みやぎ・環境とくらし・ネットワークが提案し、チームが即タンブラーの発売を決定したもので、サポーターやボランティアの理解・協力を得て一気に広がり、今やすっかり常識となっています。また、“ボランティア、スタッフ弁当ガラ分別の徹底”“リサイクルできる紙類の資源としての分別回収”“売店の協力によるレジ袋の徹底した削減”などにも取り組んでいます。

サポーターの間でごみの分別、タンブラーの使用、エコバッグ持参は当たり前の光景となり、年平均の1,000人あたりのごみ袋数では2003年に25.5袋あったものが、2005年には20.3袋と減少しています。この流れはさらにひろがり、マイカップ方式はプロ野球・楽天イーグルス、プロバスケット・仙台89ERSでも導入の検討に入っています。この取り組みをベースに、宮城県におけるごみ減量システムを確立し、スポーツを中心とした環境配慮型のまちづくりを目指しています。

また、マイカップ方式は、仙台、千葉、草津、FC東京、川崎F、広島、徳島、大分などのJリーグチームでも導入されています。





## STEP9 ビジネスとしてのリユースカップ

## リユースカップはビジネスになりますか？

イベントから  
ごみを  
減らそう

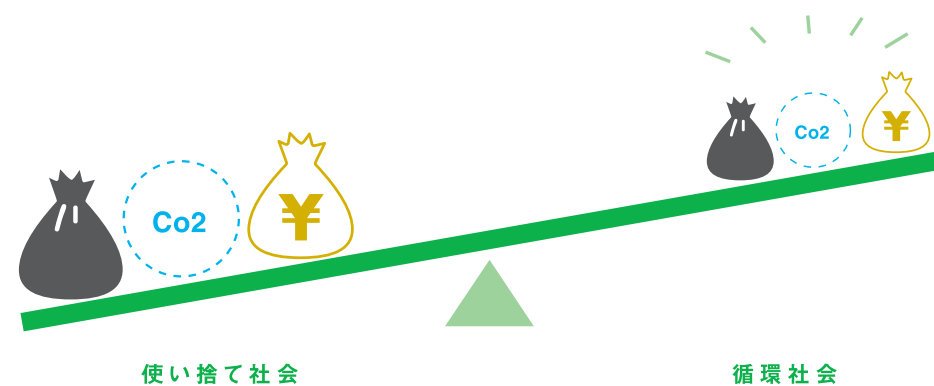
コミュニティービジネスという取り組みが注目を集めています。地域の経済の活性化をはかると同時に、地域の人々の生きがい、環境改善や福祉の向上につながるビジネスのことです。

そのひとつとして、山梨県・増穂町に拠点を置くNPO・スペースふうの取り組みがあります。

お祭りの後のごみをなんとか減らそうと、10人の主婦がリユース食器のレンタル事業に乗り出し、平成15年から、地元のJリーグ・ヴァンフォーレ甲府にリユースカップのレンタルを開始しました。一年目は洗浄施設建設等の借金に追われ、夜中までカップの洗浄作業に従事しました。

二年目から時給200円が払えるようになりました。平成17年は時給400円に。平成18年は時給600円を目指しています。今、スペースふうのレンタル食器は北海道から九州まで利用されています。

また、家庭や事業所から出るごみの処理については、多くの自治体で処理料金の見直しが始まっています。石油製品の値上がりにより、プラスチック製品のリユース・リサイクルの優位性も高まっています。「捨てるより再利用の方が得」という時代がすぐそこまで来ています。

イベントから  
ごみを  
減らそう

「もったいない」

という日本語が国際的に広まっています。日本のふろしきのように、ものを大事にし、とことん使いこなすという精神が外国から注目されているのです。

21世紀の人類の課題とされる循環型社会を築いていくためには、ひとりでも多くの人々が、もったいない精神に裏打ちされた3R活動に取り組むことが重要です。

さあ、みなさんも、イベント会場から地球環境を見直してみませんか。

リユースカップ導入  
についての問い合わせ先

財団法人 地球・人間環境フォーラム

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1-18-1  
虎ノ門10森ビル5FTEL 03-3592-9735  
FAX 03-3592-9737

ホームページでも詳しく解説

<http://www.gef.or.jp/reuse/>